

Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第212号

ななえ古写真物語

VOL.212

知ったつもりでも

観音橋と大沼小唄

昭和初期か？

大沼国定公園



知ったつもりでも、知らない事は多い。古い絵葉書を整理していた時のこと、これはあそこだな。とか、昔はこんな建物があつたのか。などと確認していたのだが、ふと、この写真の上部に記された「北海道大沼公園 観音橋」の赤字が目に留まった。右奥に写る駒ヶ岳の裾野と、大沼に浮かぶ島々が橋で繋がれていることから、現在の東大島あたりの景色だろうが、観音橋の記憶が蘇らない。よく耳にしそうな名だが、そんな橋があつたのかと、虫眼鏡を手に見直した。構図的に観音橋は、左側中央部にある、ゆるやかな弧を描いている橋なのだろう。

さっそく観音橋について調べてみたが、大沼観光協会発行の『NANAE大沼【大沼観光事典】』には、大沼の橋のリストに名が連ねられているが、地図上にプロットされておらず（私の探し方が悪いのかもしれないが）、場所まではわからなかったが、千葉昇氏が執筆した『北海道大沼公園昔語り』に観音島の話として詳しいことが綴られていた。

要約すると、西大島から東大島をわたっている時に右手に浮かぶ小さな小島があり、千葉氏が子どもの頃（ちなみに千葉氏は大正5年生まれ）は、ここに小さなお堂があり、東大島から可愛らしい反り橋がかかっていたという。この小さな島が観音島で、お堂は観音堂と呼んでいたそうだ。

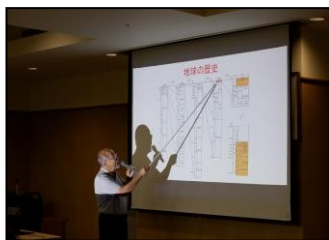
では、一体誰がこの観音橋を架けたのか。それは、明治36年に紅葉館という大旅館を開業した宮川勇だと千葉氏は記している。宮川は東大島と西大島を庭園として、東大島に擬宝珠欄干のある紅葉橋をかけ、さらに東大島から観音島へは観音橋を架け、観音像を置いたのだと。当初地域や個人で設置管理していた橋などが、大正10年ごろから、北海道立公園として行政側の管理となってからは、修理や維持費の関係からか、立派な意匠を凝らした紅葉橋は、ただの土橋へとかわり、観音橋に至っては今や跡形もないという。なるほど、大沼観光事典にプロットされていなかったのは、そういう事情だったのだろう。観音堂についても、明治から昭和初期にかけて盛隆した大沼の三十三観音巡りのために、安置した観音様のひとつだったのかもしれないが、現在、そのほとんどは昭和寺境内へ遷されたという。

あらたな事を知る喜びと、知った気になっていた自分の驕りを反省させられた一枚である。

ところで、ほかにも一枚気になる絵葉書があつた。それには大沼の湖面の写真とともに「おぼろ月夜の大沼小沼 うるむ想いの浮寝島 恋のかけ橋 そぞろに行けば 何か気になる とても気になる 鬼柳（2番省略）」という大沼小唄が綴られていた。こちらは存在は知っていたが、いまだに旋律は知らずのままである。

3日 夜の博物館第1夜

「南北海道の古環境を知る」をテーマに講師としてお迎えしたのは、北海道教育大学名誉教授の紀藤典夫氏。最近100万年前の気温や海水準の変化のはなしを皮切りに、駒ヶ岳の噴火の歴史は、32,000年前の駒ヶ岳の地層に含まれる化石から、どんな植物があったか、また、氷河時代に、青森と渡島半島は、最も近いところで、1 kmしか離れていなかったという、現在と比較すると、興味深いお話が多岐にわたりました。お話を聞き、深く考え、知って、確かなものへと変わる。夜の博物館の時間は、きっとだれかのお役にたてる時間です。



26日 ジュニア探検クラブ

この日のジュニア探検クラブは、駒ヶ岳登山を予定していたのですが、さあ、行くぞ！というタイミングで、激しい雨が…。そのため、函館市の熱帯植物園や、香雪園、北洋資料館、そして北斗市郷土資料館を見学しました。自分の背丈ほどもある大きな葉に驚き、岩船邸ではガラスの歪みに時代の古さを知り、北洋航海体験室では、船の揺れの大きさを体感し、北斗市では、自分の好きな資料を見つけたりと、充実した時を過ごしました。



成墾記念碑

時折、お問い合わせがある、「成墾記念碑」。明治28年、札幌農学校で実習地を求めていた折に、入船重太郎が所有していた土地を提供し、札幌農学校第七農場が、ここに誕生します。開墾が完了し、大正4年に記念碑を建立しました。表面に書かれている「務茲稼穡（むしかしよく）」は、中国の梁（りょう）の時代に、武帝が周興嗣（しゅうこうし）に命じて作らせた、文字習得のための教材「千字文」のひとつ。作物を植えては取り入れに務めるの意です。



9月の予定

1	月	休館日
2	火	テーマ展開催中
3	水	
4	木	夜の博物館 第4夜
5	金	
6	土	遺跡見学会
7	日	
8	月	休館日
9	火	
10	水	
11	木	
12	金	
13	土	
14	日	弘前大学発掘成果展 最終日
15	月	敬老の日
16	火	休館日
17	水	
18	木	
19	金	ピチャリ第213号発行
20	土	
21	日	
22	月	休館日
23	火	秋分の日
24	水	
25	木	
26	金	
27	土	ジュニア探検クラブ
28	日	
29	月	休館日
30	火	

※休館日：1日、8日、16日、22日、29日

半自動噴霧器

町内の果樹園で使われていた噴霧器。T字のハンドルを数回押し、圧力をかけて使用します。薬剤の防除は大正の初めから推奨されました。



編集後記 ～tawagoto～

ミュージアムグッズに魅かれる。展示を見たあとのお楽しみとして、立ち寄る人の中には、それを目的のひとつにしていることもあるだろう。歴史館でも、ミュージアムショップはありますか？、というお電話をいただくことが、少ないがある。展示内容に合わせたグッズは、文房具だったり、食べものだったり、衣類もある。なにか特別なものでなくても、スーベニールとしてのグッズを近い未来、当館でも制作できたらいいなあ、と思っている。

Pichari ～ピチャリ～

第212号

令和7年（2025年）8月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp